

2025年度 農作物栽培計画

改定日:2024年 9月 7日

団体名 (代表名)	農事組合法人 ながさき南部生産組合	生産者名 及び戸数	松尾尚 他8名	住所	〒859-2305 長崎県南島原市北有馬町戊2465-1	TEL	0957-84-3393
						FAX	0957-84-3177

作目	トマト	品種名	麗旬・かれん・サカタ 交配SC8-173	出荷期間(時期)	12月上旬～6月下旬
----	-----	-----	-------------------------	----------	------------

栽培面積	380a	生産量 (トン)	前年度実績	347トン	出荷規格	2L～2S4kg・300gpk・400gpk・450gpk・500gpk
反当株数	2,600株		今年度計画	350トン	荷姿	4kgDB、コンテナ

年間栽培計画

月次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作業内容	ト動※ マでマ トキル トなハ ーいナ ン低バ を温チ 使用が 用は活	追 肥	マ ル ハ ナ バ チ 利 用			収 穫 終 了		播 種	元ハ 肥ウ ス・ マル チ被 覆	定支 植柱 立て	マ誘 ル引 ハ ナ バ チ 利 用	誘収 引穫 肥開 始
防除等	※病害虫防除は防虫ネットによる害虫侵入防止と循環扇でハウス内の湿度・温度のムラをなくす。 ※化学合成農薬等の使用については、「ながさき南部生産組合:トマトの防除計画」を参照して下さい。											

土作り、施肥について	栽培の特徴	商品特徴・PR
アニリッチゴールド(683)・フィッシュパワー・カキライム・ぼかし・ アグリハーモニー・コフナ1号・マイルドフミン・海力No.1・恵土・富 民源(腐植)・土衛門・ゼオライト・CAドクター・スーパー胡麻エー ス・自然の恵・完熟もみがら堆肥・菜種粕・白酢・発根力・糖力 アップ・菌力アップ・ライムショット・MOX・硫酸カリ・トレハロース・ ソットコール・ラッキー液肥茶・VFコール・IPCa・SP 完熟堆肥有機質肥料を主体に化成の窒素を15kg/10a以内に抑 えます。	化学合成農薬の使用を必要最小限にとど めています。除草剤も使用せず、有機質を 中心とした肥培管理を行い、よりよい土作 り、作物作りに努めています。ホルモン処 理のみでの着果促進を見直し、マルハナ バチも可能な限り利用しています。	農薬の使用を最小限に抑え、外観よりも食 味、安全性を大切にしています。瑞紅)紅 色で糖度が高く、味わい深い。りんか)しつ かりとした肉質でありながら、口のなかでト ロリととろけるような食感と、高糖度でコクが ある。

長崎県慣行基準促成栽培化成窒素33kg

対象病害虫	特裁表示 カウト	登録番号	使用選択農薬	成分	毒性	魚毒性	濃度	使用回数	休薬期間	RACコード
【 殺 虫 剤 】										
コナジラミ類ハモグリバエ類アブラムシ類	1	19103	ベストガード粒剤	ニテンピラム	普通物	A	5g/培土% 1~2/株	1回 1回	鉢上げ時 定植時	4 A
	1	20806	アルバリン粒剤	ジノテフラン	普通物	A	5g/培土% 1~2/株	1回 1回	育苗期 定植時	4 A
	1	20812	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	普通物	A	2000~3000倍 (100~300%/10a)	1回	前日	4 A
コナジラミ類ハモグリバエ類アブラムシ類アザミウマ類	1	23567	プリロソソ粒剤	シアントラニプロール	普通物		2g/株	1回	鉢上げ時	28
コナジラミ類 オオタバコガ・ハスモンヨトウハモグリバエ類	1	22696	アニキ乳剤	レピメクチン	普通物	A	1000~2000倍 (100~300%/10a) 2000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	6
アブラムシ類・コナジラミ類	1	24016	トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル	—		1000~2000倍 (100~300%/10a)	2回	前日	4 C
コナジラミ類	1	22797	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	普通物	B	4000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	9 B
	1	22093	クリアザールフロアブル	スピロメシフェン	普通物	B	2000~4000倍 (100~300%/10a)	2回	前日	23
材ハカガ・ハモグリバエ類	0	20178	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド	普通物	B	5000倍 (100~300%/10a)	2回以内	前日	5
サビダニ・タバココナジラミ類	1	17801	ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメート	普通物	C	1000~2000倍 (100~300%/10a)	3回	14日前	2 1 A
コナジラミ類アブラムシ類	1	19102	ベストガード水溶剤	ニテンピラム	普通物	A	1000~2000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	4 A
	1	19113	モスピラン水溶剤	アセタミプリド	劇物	A	2000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	4 A
	1	23187	モベントフロアブル	スピロテトラマト	普通物	—	2000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	23
コナジラミ類・ダニ・ハモグリバエ類オオタバコガ	1	20016	マッチ乳剤	ルフェヌロン	普通物	B	2000~3000倍 (100~300%/10a)	4回	前日	15
ダニ・タバコガ	1	19184	コテツフロアブル	クロルフェナピル	劇物	C	2000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	13
ハモグリバエ類・オオタバコガ・ダニ	1	19842	アフアーム乳剤	エマクチン安息香酸塩	普通物	C	2000倍 (100~300%/10a)	5回	前日	6
うどんこ病・ハダニ類・アブラムシ類	0 (有)	20316	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド	普通物	A	300~600倍 (150~500%/10a)	—	前日	—
コナジラミ類・ダニ・ハモグリバエ類・オオタバコガ	1	22464	プレバソソフロアブル5	クロラントラニプロール水和剤	普通物	B	1000倍 1株当たり25ml	1回	育苗期~定植前日	28
							2000倍 100~300%/10a	3回	前日	
コナジラミ類・ハモグリバエ類・オオタバコガ・アブラムシ	1	24209	ベネビアOD	シアントラニプロール	普通物	—	2000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	28
コナジラミ類・トマトハモグリバエ類・ハンモスヨトウ	1	24185	グレーシア乳剤	フルキサメタシド乳剤	普通物	—	2000倍 (100~300%/10a)	2回	前日	30

対象病害虫	特裁表示あり/なし	登録番号	使用選択農薬	成分	毒性	魚毒性	濃度	使用回数	休薬期間	RACコード
コナジラミ類	0	23731	ベミデタッチ	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤	普通物	—	500倍 (100~300%/10a)	—	前日	—
ハダニ類・チャノホコリダニ・トマトサビダニ・コナジラミ類	0	22801	サフオイル乳剤	調合油（サフラワー油および綿実油の含量として）97.0%	普通物	—	300倍~500倍 (100~500%/10a)	—	前日	—
アブラムシ類・ハダニ類・コナジラミ類・うどんこ病	0	22477	ムシラップ	ソルビタン脂肪酸エステル乳剤	普通物	—	500倍 (100~300%/10a)	—	前日	—
ハダニ類・ハモグリバエ・アザミウマ・コナジラミ類・オオタバコガ	0	24054	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド75%スピノサド5%水、界面活性剤20%	普通物	—	1000倍 (100~300%/10a)	2回	前日	5
アブラムシ類・コナジラミ類・ハモグリバエ	1	24090	ベリマークSC	シアントラニプロール	普通物	—	400倍 25ml/1株	灌注のみ1回	鉢上げ後	28
ハダニ・アブラムシ・コナジラミ類・うどんこ病	0	23741	フーモン	ポリグリセリン脂肪酸エステル	普通物	—	1000倍 (150~500%/10a)	—	前日	—
アザミウマ・コナジラミ・ハモグリバエ・オオタバコガ・ハスモンヨトウ	1	22910	ディアナSC	スピネトラム	普通物	B	2500~5000倍 (100~300%/10a)	2回	前日	5
コナジラミ類	0	20956	ボタニガードES	ポーベリア・バシアーナ	—	—	1000~2000倍 (100~300%/10a)	—	—	—
タバココナジラミ・オンシツコナジラミ	0	21070	エルカード	サハクツヤコハチ	—	—	1箱/10a	—	—	「-(生)」
タバココナジラミ・オンシツコナジラミ	0	18929	エンストリップ	オンツツヤコハチ	—	—	1カード/25~30株	—	—	「-(生)」

【 殺菌剤 】

うどんこ病・すすかび病・灰色かび病・葉かび病	1	19884	ベルコートフロアブル	イミノクタジナルベシル酸塩	普通物	A	2000~4000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	M7
うどんこ病・すすかび病・灰色かび病・葉かび病	2	22290	シグナムWDG	※ ピラクロストロピン・ボスカリド	普通物	C	2000倍 (100~300%/10a)	2回	前日	7—11
すすかび病・灰色かび病・葉かび病・菌核病・斑点病	1	23102	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ	普通物	—	2000~3000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	11
疫病・葉かび病	2	20354	ハイストライフアブル	シモキサニル・ファモキサドン	普通物	C	1500~2500倍 (150~300%/10a)	3回	前日	11—27
疫病	1	23436	エトフィンフロアブル	エタボキサム	普通物	-	1000倍 (100~300%/10a)	4回	前日	22
	2	23455	ザンプロDMフロアブル	アメトクトラジン・ジメトモルフ	普通物	-	1500倍 (100~300%/10a)	3回	前日	45
	1	20624	ランマンフロアブル	シアゾファミド	普通物	A	1000~2000倍 (150~300%/10a)	4回	前日	21
疫病	1	22379	レーバスフロアブル	マンジプロパミド	普通物	—	1500~2000倍 (100~300%/10a)	2回	前日	40
疫病	2	24164	オロンディスウルトラSC	オキサチアピプロリン2.7%マンジプロパミド23%	—	—	2000倍 (100~300%/10a)	2回	前日	49

対象病害虫	特裁表示カウト	登録番号	使用選択農薬	成分	毒性	魚毒性	濃度	使用限度回数	休業期間	RACコード
灰色かび病	1	19426	セビア-フロアブル20	フルジオクソニル	普通物	A	1000~1500倍 (100~300%/10a)	3回	前日	12
葉かび病	1	21469	カンタスドライフロアブル	※ボスカリド水和剤	普通物	A	1000~1500倍 (100~300%/10a)	3回	前日	7
うどん粉・葉カビ	1	23921	ネクスターフロアブル	イソピラザム	普通物		1000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	7
うどんこ病・さび病灰色かび病・葉かび病	0	18358	カリグリーン	炭酸水素カリウム	普通物	A	800~1000倍 (100~300%/10a)	—	前日	NC
うどんこ病	2	21117	パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリフルミゾール	普通物	B	2000倍 (100~300%/10a)	2回	前日	3—U6
うどんこ病	0	17827	イオウフロアブル	硫黄	普通物	A	500~1000倍	—	—	M2
着果促進・果実の肥大促進	1	6072	トマトトーン	4-CPA	普通物	C	低温時50倍 高温時100倍	1花房につき1回	—	—
灰色かび病・葉かび病・菌核・うどんこ病	1	22209	アフェットフロアブル	ペンチオピラド	普通物	B	2000倍 (100~300%/10a)	3回	前日	7

【生物農薬】

対象病害虫	特裁表示カウト	登録番号	使用選択農薬	成分	毒性	魚毒性	濃度	使用限度回数	休業期間	RACコード
トマトサビダニ	0	18406	コロマイト乳剤	ミルベメクチン	普通物	C	1500倍 (100~300%/10a)	2回	前日	6
灰色かび病・うどんこ病	0	20080	ボトキラー水和剤	バチルス・ズブチリス	—	—	1000倍 (150~300%/10a)	—	発病前	BM2
うどんこ病	0	20080	ボトキラー水和剤	バチルス・ズブチリス	—	—	使用量：300g/10a 使用液量：6~10%/10a	—	発病前～ 発病初期	BM2
葉かび病	0	21071	インプレッション水和剤	バチルス・ズブチルス	—	—	500倍	—	発病前～ 発病初期	44
コナジラミ類	0	20956	ボタニガードES	ポーベリアバシアーナ	—	—	1000~2000倍 (100~300%/10a)	—	発病前～ 発病初期	—

※ 圃場で使用する農薬に多少違いは生じるとは思いますが、化学合成農薬の殺菌剤・殺虫剤の農薬総使用回数(成分カウント)を25回以内に抑え、

1回でも使用回数を減らすよう努力致します。(長崎県慣行促成栽培64回)

※ 化学合成農薬以外にも生物農薬を使用します。

※ 通常マルハナバチによる着果促進を行い、補完的に植物調整剤を使用します。 ※ (有)は有機で使用可能。

※ 農薬の使用回数にあたっては、育苗時(購入前も含む)の防除も含めて個々の農薬の使用限度回数を守ってください。

※2020年8月20日 プリロッソ粒剤・オロンディスウルトラSC・ダブルシューターSEを追加する。

注意：オロンディスウルトラSCは、レーバスフロアブル・ゾーベックエニケードと成分が同じなので使用回数注意すること。

注意：カンタスドライフロアブルとシグナムDWGは、成分が同じなので使用回数注意すること。注意：プリロッソ粒剤は、ベリマークSCと同じ成分。

※2020年8月20日 ファインセーブフロアブルを削除する。ゾーベックエニケードは、製造中止になり次第削除する。

※2021年8月27日 フーモン・ディアナSC・エルカード・エンストリップを追加する。ゾーベックエニケードを削除する。

※2024年9月6日ここ数年の気候変動により病害虫の発生が多くなり農薬総使用回数(成分カウント)を20回から25回へ変更する。